

平成29年度 学校関係者評価委員会資料

学校法人経専学園
 経専北海道保育専門学校
 学校関係者評価委員会

1. 開催日時

平成30年7月18日（水）15時00分～16時15分

2. 開催場所

経専北海道保育専門学校

3. 出席者

	選任区分	人数	役職名
外部関係者	企業関係者	1名	保育園園長
外部関係者	卒業生	1名	福祉施設職員
学校側	学校教職員	3名	部長、部長代理、広報事務課長

4. 学校関係者評価委員会 次第

- ① 開会
- ② 部長挨拶
- ③ 平成29年度における自己評価の報告
- ④ 討議・意見交換
- ⑤ 閉会

5. 討議・意見交換

- ①自己点検・評価報告及び討議・意見交換

※評価＝適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

(1) 教育理念・目標

<p>(1) -①理念・目的・育成人材像は定められているか</p> <p style="text-align: right;">自己評価： 4 、委員会評価： 4</p> <p>学園基本理念である「学生第一主義」を念頭に置き、学生が就職3年後に「学校で身につけた専門的な基礎知識・技術を駆使しながら、社会人基礎力を磨き、職場で重要な戦力となり活躍している」ことを育成目的とし、これらをカリキュラムなどの教育内容に反映させている。</p>
<p>(1) -②学校における職業教育の特色は何か</p> <p style="text-align: right;">自己評価： 4 、委員会評価： 4</p> <p>教育目標に掲げる「専門職業力（専門職としての基礎力）」「社会人基礎力（社会人としての基礎力）」「高い職業意識と意欲（プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力）」の現場力3要素を修得させるために、専門知識系科目と専門技術系科目及びその他必要な科目を体系的に編成し、座学、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。</p>
<p>(1) -③理念・目的・育成人材像・特色などが学生・業界関係者・保護者等に周知されているか</p> <p style="text-align: right;">自己評価： 4 、委員会評価： 4</p> <p>ホームページ、ガイダンス、各種説明会、年3回の保護者への通知等で周知を図っている。</p>

○課題

- ・特になし
- 今後の改善方策
 - ・特になし

- 各評価委員からの意見・指導
 - ・特になし

(2) 学校運営

(2) -①目的等に沿った運営方針が策定されているか <p style="text-align: right;">自己評価： 4 、委員会評価： 4</p>
設置法人が定める運営方針に基づき、当該専門学校の方針、目標、組織体制を定めている。運営方針は毎年4月に実施される、学園方針説明会にて発表し、周知徹底されている。
(2) -②運営方針に沿った事業計画が策定されているか <p style="text-align: right;">自己評価： 3 、委員会評価： 3</p>
学園方針説明会にて示された重点課題目標に沿って、具体的な実施計画を策定している。毎月の重点計画会議にて重点課題項目毎に達成状況の報告及び未達成項目についての具体的取り組みの報告を行っている。
(2) -③運営組織の意思決定権は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか <p style="text-align: right;">自己評価： 4 、委員会評価： 4</p>
就業規則及び業務分掌表にて明確化されている。毎週行われる教務会議及び毎月行われる重点計画会議にて全職員が情報を共有し、決定事項については原則、会議にて決定する。

- 課題
 - ・特になし
- 今後の改善方策
 - ・特になし
- 各評価委員からの意見・指導
 - ・特になし

(3) 教育活動

(3) -①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか <p style="text-align: right;">自己評価： 4 、委員会評価： 4</p>
卒業までの授業科目計画及びシラバスが配布されている。
(3) -②教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか <p style="text-align: right;">自己評価： 4 、委員会評価： 4</p>
専修学校設置基準に定められた年間800時間以上、課程の修了に必要な総時間数1,700時間以上を確保しており、学則に明記している。
(3) -③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか <p style="text-align: right;">自己評価： 3 、委員会評価： 3</p>
カリキュラムは、保育士や幼稚園教諭等の資格取得の必須科目（法的に定まっている）と業界のニーズを踏まえた実技・実践科目から成っている。
(3) -④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか <p style="text-align: right;">自己評価： 3 、委員会評価： 3</p>
実技・実践科目のカリキュラムは、保育現場の意見を取り入れながら見直しを行っている。教育課程編成委員会を開催し、現場のニーズを確認しながらカリキュラム編成を行った。教育方法については、前後期に教職員による授業参観を実施し、教授方法の見直しを図っている。また、幼稚園と養成校の懇談会や全国保育士養成協議会の研修、北海道私立専修学校各種学校連合会主催の教員研修等に参加し、定期的且つ組織的に工夫、研究を行っている。

(3) ⑤授業評価の実施・評価体制はあるか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

学生が科目単位で授業を評価する授業満足度アンケート（5点満点）を年2回実施し、教員の教授レベルの確認と評価を行なっている。平成29年度の結果は、専任及び非常勤教員の平均値は4.70、専任教員に限定すると4.81だった。

○課題

- ・保育士や幼稚園教諭を取得するために必要な教科目については、主に座学の授業を受講しレポート作成と筆記試験を行っている。学生によって学力差があり、理解度の差もあることは否めない。そういった状況の中、全員が資格取得できるよう指導を行っているが、学習についていけずに悩みを抱える学生も少なくないのが実情である。

○今後の改善方策

- ・多くの科目はレポートや試験答案を豊岡短期大学に送付して豊岡短大担当教員による採点・評価となっていたが、今年度より授業実施者が採点・評価を行うことが出来るようになったため、ピンポイントでのレポート、試験対策の授業を実施することが可能になる。計画的に学習を進めることで、より単位修得が容易になるため、クラス担任は学生のレポート提出状況や試験勉強の進捗状況を把握し、計画的に学習をする環境を整え必要に応じ適切な指導を実施する。

○各評価委員からの意見・指導

- ・資格を取得するための学習は大切であるが、受動的に学ぶだけでは理解が深まらないので、学生に興味を持たせ能動的に授業に参加し、自ら理解を深めようとする方が効果的である。保育現場をイメージさせ、興味を抱かせ、それを持続する工夫を入学後早い時期から行うことが重要である。

(4) 学修成果

(4) ①就職率の向上が図られているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

就職率を①専門職決定率（学んだ分野への内定者数）②全体決定率（就職希望者に対する就職率）③対象外率（就職を希望しない人数）に分類し、それぞれに目標を設定しながら学生の就職活動を支援している。平成29年度の結果は、卒業者118名、就職希望者117名、就職決定者117名、専門職決定者115名で、①専門職決定率目標98.3%で結果は98.3%(就職決定者117名中専門職115名決定)、②全体決定率目標99.4%に対し100%(就職希望者117名中117名決定)、③対象外率目標1名以内に対し1名引き続き求人も非常に多く、学生にとっては恵まれた環境である。

(4) ②資格取得率の向上が図られているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

資格取得率の推移を分析し、資格取得率の向上を図る取り組み（単位修得を目的とする取り組み、単位実習をクリアするため取り組み）を検討し実施している。平成29年度の資格取得率は、こども学科99.2%（昨年98.1%） こども未来学科98.0%（昨年96.8%）となっており、前年度を下回った。

(4) ③退学率の低減が図られているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

前年度の実績を基に、毎年目標を設定しながら退学率低減に取り組んでいる。平成29年度は10名の目標でスタートし、結果8名と目標を達成することができた。勉強やピアノでの躓きにより資格取得の意欲が低下するケースが増えてきている。クラス単位、学年、学科での月毎の取り組みが奏功したと思われる。

○課題

- ・求人数も多く完全に売り手市場ではあるものの、取得した資格を活かす専門職へ卒業生全員を導いていない。
- ・資格取得については実習での躓きから幼稚園教諭免許や保育士資格を取得できなかった学生が両学科で3名となっている。両方の資格を取得できない学生はいなかったため就職活動に支障が出ることはなかったが、全員が目指せる資格をすべて取得することが理想である。

- ・学校生活を行っていく中で保育への興味を失ってしまう原因として、学業やピアノの躓きがある。計画的に勉強やピアノに取り組ませることが必要である。
- 今後の改善方策
- ・学生自身がキャリアプランシートを作成し、現在までの学びや経験を把握し、目指す方向を明確にする。就職指導はキャリアプランシートを活用し、学生の特性を理解した上で、本人の希望に合いそうな求人と一緒に探していく個別対応を行う。
 - ・資格未取得になるケースは、依然として実習が大きな要因となる。実習生へ配慮していただく実習先もあるが、学校としては実習前の指導で実習中に予想されることなどを具体例を示しながら伝えるとともに、実習中の個別ケアをしっかりと行っていく。
 - ・クラス担任は、学生との個人面談にて個々の学生を把握するとともに、頻繁に教室へ赴き学生とのコミュニケーションを密にとりながら、相談しやすい雰囲気を作っていく。学業等での躓きが予想される学生には計画的に学習を進めるようサポートを行う。
- 各評価委員からの意見・指導
- ・現状は保育士不足が深刻化しており就職に困ることはないと思うが、ミスマッチによる早期退職も多くなっている。在学中にボランティアやアルバイトなどを沢山経験することが大切なのではないか。

(5) 学生支援

<p>(5) - ①進路・就職に関する支援体制は整備されているか</p> <p style="text-align: right;">自己評価： 4 、委員会評価： 4</p> <p>クラス担任、就職担当者によるダブル支援体制をとっており、全ての学生を専門職に就職させることを目標にしている。また、過去の就職試験内容が閲覧可能となっており、受験先に即した個別面接指導も実施している。就職希望調査により学生の希望を把握し、個々の状況に合わせた指導を行っている。基本的に就職活動に関しては、学生任せにすることはなく、学校が学生の状況をしっかり把握した上で、相互に納得した就職活動を行っている。</p>
<p>(5) - ②学生相談に関する体制は整備されているか</p> <p style="text-align: right;">自己評価： 3 、委員会評価： 3</p> <p>クラス担任は学生との個人面談を最低年2回実施しており、学生からの相談に対応している。また、事務職員を含む学校内の全ての教職員が積極的に学生に対して声がけを実施し、担任以外でも気軽に相談できる環境を目指している。これ以外にも、学校内にカウンセリングルームを開設し、年11回開催している。</p>
<p>(5) - ③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</p> <p style="text-align: right;">自己評価： 3 、委員会評価： 3</p> <p>学校独自の奨学生制度（入学時、進級時）や学費分納制度、経専学園学費応援制度など複数の支援体制にて対応している。近年、経済的に困窮している世帯も多く、学費納入に関して画一的な納入方法ではなく、個々の事情に合わせた提案を行っている。</p>

○課題

- ・経済的な事情は家庭により多種多様であり、事務局の対応も複雑になってきている。卒業年次では就職活動に影響が出るため、学生へのケアも大切になっている。
- 今後の改善方策
- ・家庭により様々な事情があるため、対応はケースバイケースとなる。できるだけ学生に影響（出席停止や就職活動見合わせ）が出ないように、家庭との連絡を密にとりて行く。
- 各評価委員からの意見・指導
- ・特になし

(6) 教育環境

<p>(6) - ①施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</p> <p style="text-align: right;">自己評価： 3 、委員会評価： 3</p> <p>個室のピアノレッスン室、電子ピアノ室、音楽室、手芸室、製作室、パソコン室、体育館、乳児保育室、図書室など専門的な知識・技術を習得するための設備は整っている。備品の購入、ピアノ調律は適宜行い、適切な学習環境を整えている。</p>

(6) - ②学内外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

学内の実習施設については、カリキュラムに対応する内容を整えている。必要に応じて備品の更新を実施している。学外の実習施設については、単位実習基準を満たす実習先を確保している。単位実習前に少しでも現場を理解し慣れるという目的で実施している、保育演習や福祉支援演習では、予め受入れ先との詳細な打合せを行っている。

(6) - ②防災に対する体制は整備されているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

火災防火の為の組織及び自衛消防隊の組織編成を行なっている。年1回の消防訓練においては教職員に対して消火器訓練も実施している。

○課題

- ・保育実習や教育実習などの単位実習では、限られた園での実習となってしまう。保育環境が多様になっている現状では、もっと多くの園の保育を知る必要があると感じる。

○今後の改善方策

- ・就職活動の一環で園見学を奨励していただく園が増えていることから、できるだけ見学に参加するよう指導している。

○各評価委員からの意見・指導

- ・特になし

(7) 学生の受入れ募集

(7) - ①学生募集活動は適正に行なわれているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

北海道私立専修学校各種学校連合会に加盟し、募集開始時期・募集内容等、同会の定めた規則を遵守している。

(7) - ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

カリキュラムや就職実績など正確な情報を受験者に提供することを心がけ、入学案内の内容は毎年見直しをしている。また、公表する数字の根拠を明確にし、誇大広告にならないよう自己点検している。

(7) - ③学納金は妥当なものとなっているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

毎年、学科単位で経費をチェックし学納金の見直しを実施している。その際、他校の学納金とも照らし合わせ適正度を確認している。

○課題

- ・18歳人口の減少、保育分野離れ、高校の進路指導方針が大学進学を強く勧めるようになってきている等の理由から、厳しい状況は続くと思われる。

○今後の改善方策

- ・できるだけ早い時期（中学生か高校1年生）から保育職への興味関心をもってもらえるような働きかけが必要と感じる。学校単独での広報活動だけでなく、業界全体更には自治体の協力をいただきながら保育士確保のための活動が必要と思われる。

○各評価委員からの意見・指導

- ・福祉分野を志す高校生が減少している反面、心理系の学びを求める高校生は多いと聞く。心理の学びを売りにすると高校生の反応が良いかもしれない。

(8) 財務

(8) - ①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

募集定員を下回る結果となっているが、経費の削減なども同時に行い、財務状況は特段問題はない。保育業界を志望する高校生は減少傾向にあるが、まだまだ根強い人気業種でもある。国の施策でも筆頭に挙げられている分野でもあり、今後も一定の入学生は確保できると思われるため、中長期的に安定していると考えられる。

(8) - ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	自己評価： 3 、委員会評価： 3
予算・収支計画は設置法人の総務財務室で一括整備・管理している。学校から提出された予算書を基にチェック・アドバイスが行なわれ、理事会での承認後、執行されている。	
(8) - ③財務について会計監査が適正に行なわれているか	自己評価： 4 、委員会評価： 4
私学振興助成法に基づく公認会計士（監査法人）による監査及び私立学校法に基づき、法人寄付行為第34条による監事による監査を実施し、この結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議委員会へ報告をしている。	

○課題

- ・特になし
- 今後の改善方策
 - ・特になし
- 各評価委員からの意見・指導
 - ・特になし

(9) 法令等の遵守

(9) - ①法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか	自己評価： 4 、委員会評価： 4
法令を遵守し、適切な運営を行っている。	
(9) - ②個人情報に関し、その保護のために対策がとられているか	自己評価： 3 、委員会評価： 3
個人情報に関しては、細心の注意を払うよう職員に徹底周知している。就職情報等についての公表資料については、学生より同意書をいただいている。	
(9) - ③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	自己評価： 3 、委員会評価： 3
自己評価にて課題を発見し、改善方策を検討し実施している。	

○課題

- ・特になし
- 今後の改善方策
 - ・特になし
- 各評価委員からの意見・指導
 - ・特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

(10) - ①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	自己評価： 4 、委員会評価： 4
地域の子育て支援の一環及び学生の学びの場として「保専ひろば」を定期的で開催している。	
(10) - ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	自己評価： 4 、委員会評価： 4
保育所、幼稚園、福祉施設などからのボランティア依頼は事務局が窓口となり、依頼があれば学生に周知、斡旋している。	
(10) - ③地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練を含む）の受諾等を積極的に実施しているか	自己評価： 3 、委員会評価： 3
姫路大学通信教育一般生の試験会場、スクーリング会場として校舎を提供している。	

○課題

- ・特になし

○今後の改善方策

・特になし

○各評価委員からの意見・指導

・特になし

以上